設		精	
計		算	

工 事 設 計 書

行橋市西宮市一丁目

工 事 名 行橋市西部ポンプ場給排気設備更新工事

(設 計 額)

(消 費 税 額)

(合 計)

工 事 費

+

=

第 号	工 事 の 大 要	給排気設備更新工事 一式 ・給排気ファン 6基 ・消音機 4基 ・ダクト類 一式
	起 工 理 由	行橋市ストックマネジメント計画に基づき西部ポンプ場の給排気設備の更新を行うものであります。

本 工 事 費 内 訳 書

費 目 ・ 工 種 ・ 種 別 ・ 細 目	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
給排気設備工事	1	式				
機器費						
ポンプ用給気ファン	1	基				
ポンプ用給気ファン消音器	1	基				
ポンプ用排気ファン	1	基				
ポンプ用排気ファン消音器	1	基				
自家発用給気ファン	1	基				
自家発用給気ファン消音器	1	基				
発電機室排気ファン	2	基				
自家発用排気ファン	1	基				
自家発用排気ファン消音器	1	基				
機器費 計						

本 工 事 費 内 訳 書

費 目 ・ 工 種 ・ 種 別 ・ 細 目	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
輸送費	1	式				
輸送費 計						
一般労務費	1	式				
機械設備据付労務費	1	式				
労務費 計						
複合工費	1	式				
複合工費 計						
機械経費	1	式				
直接経費 計						
仮設費	1	式				
直接工事費 計						
共通仮設費	1	式				

本 工 事 費 内 訳 書

費 目 ・ 工 種 ・ 種 別 ・ 細 目	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
準備費（積上げ）	1	式				
共通仮設費 計						
純工事費	1	式				
現場管理費	1	式				
据付間接費	1	式				
間接工事費 計						
据付工事原価 計						
設計技術費	1	式				
工事原価	1	式				
一般管理費	1	式				
スクラップ等	1	式				

【 第 2 号 明細書 】
 一般労務費

1 式 当 り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
設備機械工		人				
普通作業員		人				
計						

【 第 4 号 明細書 】

複合工費

1 式 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
モルタル充填 1:2	0.3	m3				
モルタル仕上げ 2cm厚	7.2	m2				
型枠工	2.0	m2				
はつり工 鉄筋コンクリート	2.4	m3				
ダクト工 (更新)	1	式				
電工	1	式				
計						

【 第 6 号 明細書 】

スクラップ等

1 式 当 り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
スクラップ 鉄くず 故鉄B	3.36	ton				
計						

【 第 1 号 代価表 】

ダクト工(更新)

1 式 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
ポンプ用給気						
ダクト SGHC W1,900×D1,000	1	基				
屋外フード SUS304 W3,000×D1,500×H2,800	1	基				
逆流防止ダンパ SGHC W940×D940×L200	1	基				
標準付属品 ボルト、ナット類	1	式				
ポンプ用排気						
屋外フード SUS304 W3,000×D1,500×H2,200	1	基				
逆流防止ダンパ SGHC W900×D900×L200	1	基				
標準付属品 ボルト、ナット類	1	式				
自家発用給気						
逆流防止ダンパ SGHC W900×D900×200	1	基				
標準付属品 ボルト、ナット類	1	式				

【 第 1 号 代価表 】

ダクト工(更新)

1 式 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
発電機室排気						
標準付属品 ボルト、ナット類	1	式				
自家発用排気						
逆流防止ダンパ SGHC W900×D900×200	1	基				
標準付属品 ボルト、ナット類	1	式				
計						

【 第 2 号 代価表 】

電工

1 式 当 り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	明細単価番号	摘 要
電工		人				
CE14sq-3C	160	m				
CE5.5sq-3C	320	m				
計						

特記仕様書

第 1 章 総則

本工事は西部ポンプ場における施設稼動のための空調設備更新工事を行うものであり、設計、製作（購入を含む）、撤去、据付、試運転調整および検査まで一式を含むものである。

【一般事項】

工事に伴う補償について

工事の施工に伴って、第三者に及ぼした被害（以下「被害」という。）については、工事請負契約約款28条及び共通仕様書等によるところであるが、補償業務の公正かつ適正な処理のため、特に下記事項に留意されたい。

上記被害とは、工事施工中はもちろんのこと、工事完了後においても発生したものをいう。

1 被害の防止

請負者は、工事を施工するにあたり、第三者に及ぼす被害を可能な限り防止、軽減、回避するため最善の努力を払い、適切な処理を講じなければならない。

2 補償責任

第三者に及ぼした被害のうち、次の場合は、請負者が補償しなければならない。

- (1) 請負者が契約約款、設計図書、または市の指示事項に従わなかったことが原因となった場合。
- (2) 工事の施工につき、請負者が善良な管理者の注意義務を怠ったことが原因となった場合。
- (3) 請負者自らの責任で採用した工法が原因となった場合。
- (4) 不可避的に発生した被害の場合で軽微（請負金額の 100 分の 1 以内）なもの。
- (5) 不可避的に発生した被害の場合で現場管理費の中の補償費相当額（請負金額の 100 分の 1）に当るもの。

請負者は上記の補償を行った場合、補償の内容等を確認できる資料（写真、図面、領収書等）を作成し、監督員より指示があった場合はすみやかに提出しなければならない。

3 被害の申出、確認

- (1) 請負者は、第三者から被害の申出を受けた場合、申出者を確認するとともに直ちに監督員に報告しなければならない。
- (2) 請負者は、監督員の指示に従い、申出者立会のもと、被害状況の確認を行わなければならない。

4 応急処置

- (1) 請負者は、被害状況の確認の結果、被害の程度が日常生活に著しく支障をきたすと判断されるときは、すみやかに日常生活を継続しうるに足りる応急措置を講じなければならない。
- (2) 応急措置を行うか否かの判断、及び応急措置の内容については、監督員と協議しなければならない。

(3) 応急措置に必要な費用は、原則として請負者の負担とする。

5 補償交渉等

請負者は補償交渉等に当たっては、補償完了まで誠意をもって被害者に接し、その処理、解決に当らなければならない。

設計図書に指定された工事について

設計図書に基づき施工するものとするが、現地の状況を十分把握し、安全性、経済性、細部構造等については、請負者において十分検討のうえ、設計図書により難しい場合は監督員と協議するものとする。

請負者においても、本工事に対する施工技術検討を十分行い、その内容を施工計画書に記載し、提出するものとする。

工事の施工については、受注者の責任において実施するものとする。

安全対策について

当ポンプ場は一般道と隣接しているため、資材の搬入、搬出に際し、出入り口に誘導員を配置するなどの安全対策を講じ、通行者を優先すること。また、積荷、荷降ろしに際し、騒音、振動へ配慮すること。

他工事との区分

空調設備工事に必要な土木工事は設計書によるものとするが、その他の一部研り工および孔部分の復旧工事、据付調整用モルタル等を使用する場合は、原則、本工事の範囲とする。また、空調設備を運転するのに必要な電気工事は設計書によるものとするが、その他作業が発生した場合は発注者に承認を受け、本工事内で施工すること。

本工事、空調設備施工箇所は、本年度発注予定の耐震補強工事箇所と重複しているため、据付にあたり受注者間で連携をとり業務を遂行すること。施工時期は、既設撤去を令和4年10月、新設据付を令和5年1月を予定している。

また、その他機械工事等が同時施工となるため、他業者とも連携をとり業務を遂行すること。

第2章 雨水ポンプ設備

§1 ポンプ用給気ファン

1. 使用目的

本給気ファンは、ポンプ駆動用ディーゼル機関の冷却と、燃焼に必要な空気量を供給するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製軸流ファン	
(2) 呼称径	φ950	(参考)
(3) 風量	584.5m ³ /min	
(4) 静圧	200Pa	
(5) 電動機出力	5.5kW	(参考)
(6) 電源	200V × 60Hz × 3φ	
(7) 台数	1台	

3. 構造概要

本給気ファンは、ポンプ駆動用ディーゼル機関の冷却と、燃焼に必要な空気量を供給するために設けるものである

4. 製作条件

- (1) 振動、騒音が少なく24時間の連続運転に耐えられる構造であること。
- (2) 風量、風圧ともに十分な余裕のあるもので、下記条件により設計するものとする。
 - 1) 風量：20℃、0.1Mpa (1atm) 65%RHの設定状態における指定風量。
 - 2) 風圧：ダクト損失を十分まかない余裕ある風圧とすること。
 - 3) 電動機：気温、RH等の変化に対してもオーバーロードのない十分な余裕を有すること。

5. 各部の構造

- (1) 形式は回転バランスの良くとれた騒音、振動の少ない効率のよいものとし、軸流ファンとする。
- (2) 羽根車は指定風圧に対し十分余裕のある強度を有する肉厚とすること。
- (3) ケーシングは堅牢な構造とすること。

6. 使用材料

- (1) ケーシング SPHC または SPCC
- (2) 羽根車 SPHC または SPCC
- (3) 主軸 S35C以上

7. 試験、検査

一般事項については機械設備工事必携に準拠するほかJIS B 8330により性能検査を行い、試験成績表を必要部数提出するものとする。

8. 塗 装

一般事項については機械設備工事必携による。

9. 据 付

一般事項については機械設備工事必携による。

10. 標準付属品

(1) 消音器	1 台 (次項に詳細を記載)
(2) その他必要品	1 式

§ 2 ポンプ用給気ファン消音器（機器付属）

1. 使用目的

本消音器は、給気ファンおよび建屋内騒音を減衰するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製角形消音器	全開口型
(2) 風量	584.5m ³ /min	
(3) 概略形状	2.0m巾×1.4m奥行×2.8m高さ	
(4) 騒音値	60 dB(A)以下	吐出1mにて
(5) 数量	1台	

3. 構造概要

本消音器は、給気ファンおよび建屋内騒音を減衰するためのもので、全開口型消音器とし、減音量のみならず圧力損失等についても十分考慮すること。

4. 製作条件

給気ファン風量に対し十分な容量とし、吐出口騒音が規制値を上回らない構造であること。

5. 各部の構造

使用される部品、材料は関係規格に適合するもの、またこれに準ずるものとする。

6. 使用材料

(1) 本体	SGHC
(2) ダクト	SGHC
(3) 屋外フード	SUS304

7. 標準付属品

(1) ボルト、ナット類	1式
(2) ダクト類	1式（併設される自家発用と共用とする）
(3) 屋外フード	1式（併設される自家発用と共用とする）
(4) 逆流防止ダンパ	1式
(5) 架台	1式
(6) その他必要品	1式

8. 特記事項

- (1) 本消音器は、ポンプ用給気ファンの付属とする。

§ 3 ポンプ用排気ファン

1. 使用目的

本排気ファンは、ポンプ駆動用ディーゼル機関より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製軸流ファン	
(2) 呼称径	φ 900	(参考)
(3) 風量	500m ³ /min	
(4) 静圧	200Pa	
(5) 電動機出力	5.5kW	(参考)
(6) 電源	200V × 60Hz × 3φ	
(7) 台数	1台	

3. 構造概要

本排気ファンは、ポンプ駆動用ディーゼル機関より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものである。

4. 製作条件

- (1) 振動、騒音が少なく24時間の連続運転に耐えられる構造であること。
- (2) 風量、風圧ともに十分な余裕のあるもので、下記条件により設計するものとする。
 - 1) 風量：20℃、0.1Mpa (1atm) 65%RHの設定状態における指定風量。
 - 2) 風圧：ダクト損失を十分まかない余裕ある風圧とすること。
 - 3) 電動機：気温、RH等の変化に対してもオーバーロードのない十分な余裕を有すること。

5. 各部の構造

- (1) 形式は回転バランスの良くとれた騒音、振動の少ない効率のよいものとし、軸流ファンとする。
- (2) 羽根車は指定風圧に対し十分余裕のある強度を有する肉厚とすること。
- (3) ケーシングは堅牢な構造とすること。

6. 使用材料

- (1) ケーシング SPHC または SPCC
- (2) 羽根車 SPHC または SPCC
- (3) 主軸 S35C以上

7. 試験、検査

一般事項については機械設備工事必携に準拠するほかJIS B 8330により性能検査を行い、試験成績表を必要部数提出するものとする。

8. 塗 装

一般事項については機械設備工事必携による。

9. 据 付

一般事項については機械設備工事必携による。

10. 標準付属品

(1) 消音器	1 台 (次項に詳細を記載)
(2) その他必要品	1 式

§ 4 ポンプ用排気ファン消音器（機器付属）

1. 使用目的

本消音器は、排気ファンおよび建屋内騒音を減衰するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製角形消音器	全開口型
(2) 風量	500m ³ /min	
(3) 概略形状	1.9m巾×1.6m奥行×2.2m高さ	
(4) 騒音値	60 dB(A)以下	吐出1mにて
(5) 数量	1台	

3. 構造概要

本消音器は、給排気ファンおよび建屋内騒音を減衰するためのもので、全開口型消音器とし、減音量のみならず圧力損失等についても十分考慮すること。

4. 製作条件

排気ファン風量に対し十分な容量とし、吐出口騒音が規制値を上回らない構造であること。

5. 各部の構造

使用される部品、材料は関係規格に適合するもの、またこれに準ずるものとする。

6. 使用材料

- (1) 本体 SGHC
- (2) 屋外フード SUS304

7. 標準付属品

- (1) ボルト、ナット類 1式
- (2) 屋外フード 1式（併設される自家発用と共用とする）
- (3) 逆流防止ダンパ 1式
- (4) 架台 1式
- (5) その他必要品 1式

8. 特記事項

- (1) 本消音器は、ポンプ用排気ファンの付属とする。

§ 5 自家発用給気ファン

1. 使用目的

本給気ファンは、自家発電機の冷却と、燃焼に必要な空気量を供給するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製軸流ファン	
(2) 呼称径	φ 850	(参考)
(3) 風量	359.9m ³ /min	
(4) 静圧	150Pa	
(5) 電動機出力	3.7kW	(参考)
(6) 電源	200V × 60Hz × 3φ	
(7) 台数	1台	

3. 構造概要

本給気ファンは、自家発電機の冷却と、燃焼に必要な空気量を供給するために設けるものである

4. 製作条件

- (1) 振動、騒音が少なく24時間の連続運転に耐えられる構造であること。
- (2) 風量、風圧ともに十分な余裕のあるもので、下記条件により設計するものとする。
 - 1) 風量：20℃、0.1Mpa (1atm) 65%RHの設定状態における指定風量。
 - 2) 風圧：ダクト損失を十分まかない余裕ある風圧とすること。
 - 3) 電動機：気温、RH等の変化に対してもオーバーロードのない十分な余裕を有すること。

5. 各部の構造

- (1) 形式は回転バランスの良くとれた騒音、振動の少ない効率のよいものとし、軸流ファンとする。
- (2) 羽根車は指定風圧に対し十分余裕のある強度を有する肉厚とすること。
- (3) ケーシングは堅牢な構造とすること。

6. 使用材料

- (1) ケーシング SPHC または SPCC
- (2) 羽根車 SPHC または SPCC
- (3) 主軸 S35C以上

7. 試験、検査

一般事項については機械設備工事必携に準拠するほかJIS B 8330により性能検査を行い、試験成績表を必要部数提出するものとする。

8. 塗 装

一般事項については機械設備工事必携による。

9. 据 付

一般事項については機械設備工事必携による。

10. 標準付属品

(1) 消音器	1 台 (次項に詳細を記載)
(2) その他必要品	1 式

§ 6 自家発用給気ファン消音器（機器付属）

1. 使用目的

本消音器は、給気ファンおよび建屋内騒音を減衰するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製角形消音器	全開口型
(2) 風量	359.9m ³ /min	
(3) 概略形状	1.4m巾×2.0m奥行×2.8m高さ	
(4) 騒音値	60 dB(A)以下	吐出1mにて
(5) 数量	1台	

3. 構造概要

本消音器は、給気ファンおよび建屋内騒音を減衰するためのもので、全開口型消音器とし、減音量のみならず圧力損失等についても十分考慮すること。

4. 製作条件

給気ファン風量に対し十分な容量とし、吐出口騒音が規制値を上回らない構造であること。

5. 各部の構造

使用される部品、材料は関係規格に適合するもの、またこれに準ずるものとする。

6. 使用材料

(1) 本体 SGHC

7. 標準付属品

(1) ボルト、ナット類 1式

(2) 逆流防止ダンパ 1式

(3) その他必要品 1式

8. 特記事項

(1) 本消音器は、自家発用給気ファンの付属とする。

§ 7 発電機室排気ファン

1. 使用目的

本排気ファンは、自家発電機より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものであり、発電機室からポンプ室へ誘導の為に設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	有圧換気扇	
(2) 呼称径	φ 600	(参考)
(3) 風量	164.5m ³ /min	
(4) 静圧	50Pa	
(5) 電動機出力	0.75kW	(参考)
(6) 電源	200V × 60Hz × 3φ	
(7) 台数	2台	

3. 構造概要

本排気ファンは、自家発電機より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものであり、発電機室からポンプ室へ誘導の為に設けるものである。

4. 製作条件

- (1) 振動、騒音が少なく24時間の連続運転に耐えられる構造であること。
- (2) 風量、風圧ともに十分な余裕のあるもので、下記条件により設計するものとする。
 - 1) 風量：20℃、0.1Mpa (1atm) 65%RHの設定状態における指定風量。
 - 2) 風圧：ダクト損失を十分まかない余裕ある風圧とすること。
 - 3) 電動機：気温、RH等の変化に対してもオーバーロードのない十分な余裕を有すること。

5. 各部の構造

- (1) 形式は回転バランスの良くとれた騒音、振動の少ない効率のよいものとし、有圧換気扇とする。
- (2) 羽根車は指定風圧に対し十分余裕のある強度を有する肉厚とすること。
- (3) ケーシングは堅牢な構造とすること。

6. 使用材料

- (1) ケーシング 鋼板製
- (2) 羽根車 鋼板製

7. 試験、検査

一般事項については機械設備工事必携に準拠するほかJIS B 8330により性能検査を行い、試験成績表を必要部数提出するものとする。

8. 塗 装

一般事項については機械設備工事必携による。

9. 据 付

一般事項については機械設備工事必携による。

10. 標準付属品

(1) ボルト、ナット類	1 式
(2) 換気扇ボックス	1 式
(3) その他必要品	1 式

§ 8 自家発用排気ファン

1. 使用目的

本排気ファンは、自家発電機より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製軸流ファン	
(2) 呼称径	φ 800	(参考)
(3) 風量	329m ³ /min	
(4) 静圧	150Pa	
(5) 電動機出力	2.2kW	(参考)
(6) 電源	200V × 60Hz × 3φ	
(7) 台数	1台	

3. 構造概要

本排気ファンは、自家発電機より発生する熱による室内の温度上昇を防止するために設けるものである。

4. 製作条件

- (1) 振動、騒音が少なく24時間の連続運転に耐えられる構造であること。
- (2) 風量、風圧ともに十分な余裕のあるもので、下記条件により設計するものとする。
 - 1) 風量：20℃、0.1Mpa (1atm) 65%RHの設定状態における指定風量。
 - 2) 風圧：ダクト損失を十分まかない余裕ある風圧とすること。
 - 3) 電動機：気温、RH等の変化に対してもオーバーロードのない十分な余裕を有すること。

5. 各部の構造

- (1) 形式は回転バランスの良くとれた騒音、振動の少ない効率のよいものとし、軸流ファンとする。
- (2) 羽根車は指定風圧に対し十分余裕のある強度を有する肉厚とすること。
- (3) ケーシングは堅牢な構造とすること。

6. 使用材料

- (1) ケーシング SPHC または SPCC
- (2) 羽根車 SPHC または SPCC
- (3) 主軸 S35C以上

7. 試験、検査

一般事項については機械設備工事必携に準拠するほかJIS B 8330により性能検査を行い、試験成績表を必要部数提出するものとする。

8. 塗 装

一般事項については機械設備工事必携による。

9. 据 付

一般事項については機械設備工事必携による。

10. 標準付属品

(1) 消音器	1 台 (次項に詳細を記載)
(2) その他必要品	1 式

§ 9 自家発用排気ファン消音器（機器付属）

1. 使用目的

本消音器は、排気ファンおよび建屋内騒音を減衰するために設けるものである。

2. 仕様

項目	仕様	備考
(1) 形式	鋼板製角形消音器	全開口型
(2) 風量	329m ³ /min	
(3) 概略形状	1.5m巾×1.6m奥行×2.2m高さ	
(4) 騒音値	60 dB(A)以下	吐出1mにて
(5) 数量	1台	

3. 構造概要

本消音器は、排気ファンおよび建屋内騒音を減衰するためのもので、全開口型消音器とし、減音量のみならず圧力損失等についても十分考慮すること。

4. 製作条件

排気ファン風量に対し十分な容量とし、吐出口騒音が規制値を上回らない構造であること。

5. 各部の構造

使用される部品、材料は関係規格に適合するもの、またこれに準ずるものとする。

6. 使用材料

(1) 本体 SGHC

7. 標準付属品

(1) ボルト、ナット類 1式

(2) 逆流防止ダンパ 1式

(3) その他必要品 1式

8. 特記事項

(1) 本消音器は、自家発用排気ファンの付属とする。

第3章 複合工（雨水ポンプ設備）

§ 1 基礎工

1. 基礎工仕様及び施工範囲

番号	名称	設置場所	主寸法	数量	備考 (防食塗装, 防水等)
1	ダクト開口（据付）	ポンプ室 1階	〃	1	

2. 一般仕様書の適用

原則として機械設備工事一般仕様書を適用するが、協議事項がある場合については、監督員との協議とする。

§ 2 ダクト工

1. ダクト（低圧ダクト）

ダクト材質	ダクト寸法	施工範囲
亜鉛鉄板製	□1900×1000・□900×1800・φ860	図面による

2. 一般仕様書の適用

原則として機械設備工事一般仕様書を適用するが、協議事項がある場合については、監督員との協議とする。

§ 3 電工

1. 動力ケーブル

ケーブル規格	数量	施工範囲
CE14sq-3C	L=160m(参考)	図面による
CE5.5sq-3C	L=320m(参考)	

2. 一般仕様書の適用

原則として機械設備工事一般仕様書を適用するが、協議事項がある場合については、監督員との協議とする。

第4章 撤去工（雨水ポンプ設備）

§1 撤去機器類

1. 機器仕様及び撤去範囲

番号	名称	仕様	設置場所	数量	備考
1	給気ファン	床置型シロッコファン #6×692m ³ /分×50mmAq×15kW	ポンプ室 2階	1	
2	排気ファン	床置型シロッコファン #6×585m ³ /分×30mmAq×11kW	〃	1	
3	有圧換気扇	低騒音型有圧換気扇 φ600×142m ³ /分×10mmAq× 1.5kW	発電機室 1階	2	

2. 特記事項

- (1) 施工箇所は、図面による。
- (2) 撤去品のうち産業廃棄物の対象となるものについては適切に処分を行うこと。

§ 2 基礎撤去工

1. 撤去基礎工仕様及び施工範囲

番号	名 称	設置場所	主寸法	数 量	備 考 (防食塗装, 防水等)
1	ダクト開口 (撤去)	ポンプ室 1階	〃	1	
2	ファン基礎 (撤去)	ポンプ室 2階	〃	2	

2. 特記事項

- (1) 施工箇所は、図面による。
- (2) 基礎撤去後は原型復旧を原則とし、モルタル等にて仕上げること。

§ 3 ダクト撤去工

1. ダクト

ダクト材質	ダクト寸法	施工範囲
亜鉛鉄板製	□2400・□2600・□1200×1300 □1000・□1200×600・□1000×550 □900×1300・□1300	図面による

2. 特記事項

- (1) 撤去内容は、ダクト本体・ダンパー類・チャンバー・サポートである。撤去範囲については図面によるが、詳細については打ち合わせにより決定する。
- (2) 撤去品のうち産業廃棄物の対象となるものについては適切に処分を行うこと。